

DCX CONNECTOR

TREC専用

この度は弊社製品<DCXコネクタ>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。本製品はTRECをワンタッチ装着する為の専用カプラーです。本製品を安全にご使用して頂く為に、装着ならびご使用の前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。
お願い！ 本製品は性能向上他の理由により、頻繁に取り扱い説明書の変更をおこなっております。お手元の取り扱い説明書のVol番号が最新でない場合はご面倒でも当社ホームページ上の取り扱い説明書を参考に取り付け、調整をおこなって下さい。

警告 死傷につながる恐れがある事故を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 運転者は、走行中に本製品を操作しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となってしまいます。
- 本体は運転の妨げにならない場所に固定して下さい。

注意 負傷または、車両や商品の損傷を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 取り付け作業はエンジンを停止させ、専用設備を持った安全な場所でおこなって下さい。必ず専門の業者に依頼して下さい。
- 本製品およびハーネスを高温部もしくは水のかかる場所に設置することは絶対にさけて下さい。また製品を落としたり、衝撃を与えたりすると故障の原因になります。
- 製品を分解もしくは改造して使用した場合、当社では一切責任を負うことが出来ません。

【取り付け方法】

<取り付け作業の前に>

- 取り付け作業には配線の接続の為に圧着ペンチ、ビニールテープ等が必要です。
- ハーネス類は運転の障害にならないようにまとめて本体を固定して下さい。

注意！ ● 取り付け作業はキースイッチを抜いてから10分間はおこなわないで下さい。(完全に電源がOFFになるまで)

- キースイッチを抜いても数分間電源がOFFにならない車両がある為
- 電源がOFFにならない状態で作業をおこなった場合は車両ECUが『エラー認識』してしまうことがあります。
- 取り付け作業はバッテリーをはずさずにおこなって下さい→バッテリーをはずした場合は(アイドリング学習)が必要な場合があります。
- 電子スロットル制御に関わる部分です。接続位置、接触には慎重に作業をおこなって下さい。
- 接触不良等がある場合、正常にエンジンが吹けあがらない、エンジンチェック点灯等の状況が出てしまいます。この場合専用の機器しかエンジンチェックの点灯は消せないことがあります。十分注意して作業をおこなって下さい。

<ECUへの取り付け方法>

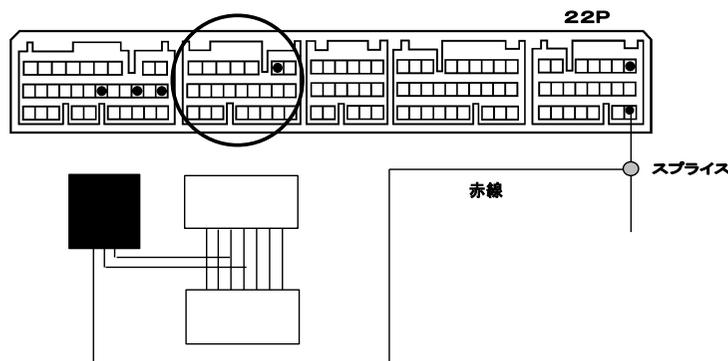
- ① ECUの位置を確認して下さい。
- ② 装着するカプラーを確認して下さい。(下図参照・丸で囲んだコネクタに装着し)
- ③ カプラーを抜きDCXコネクタを確実に装着して下さい。
- ④ 運転の障害にならないように配線をまとめて下さい。

DCX-T3

トヨタ 1G,2Jエンジン車

*ECUはエンジンルーム内にあります。

- DCX-T3の赤線を下記の位置の配線へ接続して下さい。(場所はIG12vです)
- * 22Pカプラー右下の位置へ、スプライスで接続してください。(下図参照)
- * スプライスの使用方法参照



参考/スプライスの使用方法



- * 配線の適当な場所の被服を5mm程度むきます。
- * 赤色の配線の先を10mm程度被服をむき、車両配線へ巻きつけます。
- * スプライスを接合部にあて、圧着ペンチでかします。
- * ビニールテープにて接合部を絶縁します。

<トラブルチェック>

※DCX-T3を装着して下記の症状がでる場合は、アダプターの調整をおこなって下さい。

症状 ● アクセルを全開域まで踏み込んだ時のみ吹け上がらない、エンジンチェック点灯

- 対策**
- ① ハーネスに装着されているアダプターのケースのネジを2本はずし、フタを開けて下さい。
 - ② 基板上にポリウムが装着してあります。(写真参照)
 - ③ 細めのドライバーを用意し、ポリウムを時計と反対方向に約1目盛回して下さい。
注意！ 回し過ぎると誤作動してしまいます。作業は慎重におこなって下さい。
 - ④ 症状が改善されているか、確認して下さい。改善されない場合は弊社サービス課までご連絡ください。

